

育苗期のいもち病防除を確実にいきましょう

～特に前年穂いもちの多かった地域では
耕種的な防除対策も徹底してください～

1. 前年の発生状況と今後の発生予想

前年収穫期の抽出ほ場調査（9月3～4半旬）における穂いもち発病株率は10.6%（平年6.2%）で高く、発病地点率は46.3%（平年40.1%）でやや高かったため、いもち病の越冬伝染源量は多いと考えられる（表-1）。乾燥状態で冬を越した稲わら及びもみがらには、いもち病菌が付着しており、これらを水稻育苗施設内及び周辺で放置、使用及び保管している場合は葉いもちの発生を助長する。

3月24日に仙台管区气象台から発表された東北地方3か月予報によると、4月及び5月の気温は平年並か高いと予報されている。

以上のことから、育苗期の防除を徹底しなかった場合は葉いもちの多発が懸念される。

2. 防除対策

苗の葉いもちに気づかないまま本田へ移植すると葉いもちの早期発生や、多発の要因となるので、耕種的防除法に加え、育苗期のいもち病薬剤防除を確実に行う。

1) 耕種的防除法

- ① 水稻育苗施設内や周辺でのもみがらの放置や使用、稲わらの保管は行わない。
- ② 育苗施設内の換気不良、被覆期間の長期化、苗の過繁茂、移植の遅延には注意する。
- ③ 育苗期間に1個でも病斑が認められた場合は、本田でまん延するおそれがあるので、同一育苗施設の苗は移植しない。

2) 薬剤による防除法

- ① 種子消毒を必ず行う。防除効果を高めるため、薬液及び浸種水温は10～15℃となるように努める。
- ② 育苗期のいもち病防除は、ベンレート水和剤又はビームゾルのいずれかをかん注する（表-2）。

3. その他

- 1) 本田の葉いもち防除を目的とした育苗箱施用剤は播種前の床土混和や播種時（覆土前）、緑化期に施用しても、育苗期のいもち病防除には効果がない。
- 2) 育苗期のいもち病防除対策については、チラシ（別添）を参照する。

4. 資料

表-1 抽出ほ場調査結果(令和2年9月3～4 半旬)

	穂いもち 発病株率(%)		発病 穂率(%)		発病 地点率(%)
県北部	3.3 (4.3)	並	0.18 (0.25)	並	29.2 (35.2)
県中央部	2.5 (4.1)	やや少	0.11 (0.28)	やや少	25.0 (28.7)
県南部	20.9 (8.2)	多	2.07 (0.53)	多	75.0 (50.3)
全県	10.6 (6.2)	多	0.97 (0.42)	多	46.3 (40.1)

ここでの発病とは、発病により1穂全穂の1/3以上の穂に稔実の影響があるものをいう。

()は平年値

表-2 育苗期いもち防除剤

農薬名	使用時期	箱当たり散布液量	備考
ベンレート水和剤	播種時	500倍液 500mL	かん注
	～播種7日後頃	1,000倍液 1L	
ビームゾル	緑化始期	500倍液 500mL	かん注

※注意事項

- ① ベンレート水和剤を播種時にかん注した場合、トリコデルマ菌による苗立枯病の防除も兼ねる。
- ② ビームゾルは使用時期が遅れたり、低温時又は極端な高温時(30℃以上)に使用すると葉先が黄化する薬害を生じる場合がある。
- ③ ベンレート水和剤(苗いもち、苗立枯病防除)の播種時処理は、種子消毒に使用するタフブロック又はエコホープDJの防除効果を低下させるため、これらとの体系処理は行わない。

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	

育苗期のいもち病防除を必ず行いましょう!

いもち病対策は育苗期の防除が重要です。

- ・田んぼのいもち病は、苗にいもち病が発生し、それに気づかずに田植えすることで発生します。
- ・育苗期のいもち病防除は、田んぼでの発病を防ぐ第一歩ですから必ず行いましょう。育苗箱施用剤では育苗期に発生するいもち病を防ぐことはできません。



いもち病激発ほ場(8月上旬)

穂いもち被害

育苗期いもち病防除の手順

種 子 消 毒

育 苗 期 い も ち 病 防 除

次のいずれかを選択

ベンレート 水和剤

500倍 500ml/箱
又は 1,000倍 1,000ml/箱
灌注
播種時～播種7日後頃



50リットルの水に、ベンレート水和剤100g・1袋で、育苗箱100枚分ができます。(500倍の場合)



育苗期いもち防除 灌注処理の様子

ビームゾル

500倍 500ml/箱
灌注
緑化始期
(べた張り除去後速やかに)



250リットルの水に、ビームゾル500ml・1本で、育苗箱500枚分ができます。



緑化始期：べた張り除去の様子

本 田 葉 い も ち 防 除

(育苗箱施用剤、側条施用、水面施用剤のいずれかで必ず行う。)

〈注意事項〉

- ビームゾルでは、低温時や極端な高温時(30℃以上)に薬害が生じることがあります。適温管理に努め、健苗育成をこころがけましょう。
- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。●防除日誌を記帳しましょう。

稲わら・もみがらを水稲育苗施設内や 周辺に置かないでください!

「乾燥状態で冬を越した**稲わら・もみがら**」には、いもち病菌が付着しており、そのいもち病菌が苗に移ることで葉いもちの発生を助長します。種子消毒や育苗期防除とあわせて、耕種的防除も徹底してください。



もみがら



育苗期間中に育苗施設周辺で使わない



稲わら

水稲の育苗施設内及び周辺での**もみがら**の放置や使用(左、中)**稲わら**の保管(右)は危険です。

冬期間に屋外で濡れた稲わら・もみがらのいもち病菌は死滅します。
不要な稲わら・もみがらは、秋～冬の間(田や畑など)に広げて濡らし、いもち病の伝染源を断ちましょう。

不明な点は最寄りの指導機関に相談してください